

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.72
2017.5



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

離れがたい“シマヘビ”のペア

気温が上昇したGWのある日の午後、石垣の前でじっとしていたシマヘビのカップルに出会いました。シマヘビはそれまでほぼ毎日のように目にしていましたが、その時は動かないペアと近くにもう1匹のシマヘビもいて、突然の3匹のヘビの出現に東京から来ていたリピーターの少年と目が釘付けになってしまいました。動かないペアはどちらの体かがわからないほど入り組み知恵の輪のようになっていて、一見共食いでもしているかのように見えたが、じっくり見てみると尾の近くがくっついていたため交尾中と判明。もう1匹のヘビはなかなかその場からつかず離れず…もしかするとあぶれてしまったオスだったのかも？夕方に見に行くと、2匹はまだくっついたまま同じ場所に留まっていたが、気温が下がってきたためか片方がもう一方を引きずりながら石垣の中へ消えてゆきました。無事に産卵できますように…。

What is "Shimahebi"?

「普通に見られるヘビ」

ナミヘビ科

全長：80～150cm 前後

分布：日本全土（琉球諸島除く）

体に4本の黒い線が見られ、河川敷、草原や森林などに生息。カエルを好みネズミ、鳥、トカゲ、ヘビなども食べる。7～8月に4～15個の卵を産む。メスを獲得したオスは勝利宣言のフェロモンを出す、まとわりつくオスの性欲減退をもたらす。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



網張から見える 山ノート

おすけやま 男助山・めすけやま 女助山
 標高：758.4m・609.5m
 位置（網張VCから）：南
 登山適期：おすけやま 男助山は通年、めすけやま 女助山は登山道がないため残雪期。
 特色：「御所街道の男助山と女助山」は『雲石十四景』にも選出されている優れた景勝地。

6ページ目 おすけやま 男助山・めすけやま 女助山

五月のよく晴れた午後、雲石ケツパレランド付近の登山口から男助山に登ってきました。薄暗いスギの林道を進んでいくとわずかにエゾハルゼミの鳴き声が聞こえ、仲間に「みんなもそろそろ出てこいよ」と呼びかけているようでした。

登山道はよく整備されていましたが、けっこうな急登箇所も。山頂が近付くとブナが主体の林になり、太いブナの幹には熊の爪痕もしっかりと刻まれているのが印象に残りました。



ヒトリスズカ



田に水が張られ初夏の雰囲気漂う篤宿温泉病院付近から見た両山

男助山山頂は展望がきかないが、山頂手前の展望台では岩手山や姫神山・御所湖など開放感のあるパノラマを楽しむ事ができる。



大昔、滝のような雨が毎日降り続き、雲石盆地はまるで海のようになっていた。住んでいた人や動物はみんな死んでしまったかのように思われたが、水の上に出ている小山に一人の男が流れ着き、その向かいの小山にも一人の女が流れ着いた。やがて水が引き、食料を探していた二人は出会った。男が流れ着いた小山は男助山、女が流れ着いた小山は女助山と呼ばれ、二人は雲石に住む人々の祖先といわれている。

『男助山と女助山』伝説の要約

Amihari Birds

アミハリ・バーズ Vol. 15

シメの特徴の一つは、太く丈夫なくちばしです。足を使わずに、器用に口だけで種子の皮をむいて食べる事ができます。

一見、どっしり武骨なシルエットをしていますが、性格は控え目なのか鳴き声を聞く事はまれです。

シメの名前は『万葉集』にも登場しますが、呼称は「此女」、または「比女」と一つではありませんでした。ちなみに、「シ」は地鳴きの声から、「メ」は小鳥を表す接尾語からきているとか。他にも「まめまはし」や「まめどり」等と呼ばれていたようですが、江戸時代に現在の名前に落ち着いたそうです。



シメ

科名：アトリ科
 全長：約18cm
 生態：漂鳥※
 分布：日本全国

※一般的に繁殖地は北海道と青森県以北とされ、それ以南の地域では冬鳥として知られている。

鳴き声

チツ、ピチツ
 スィー、チー

十和田八幡平国立公園内の温泉を訪ねて

国立公園の温泉と聞いただけで、ビジターにとっては、雄大な景色と野趣溢れる温泉を連想し、旅する気持ちの大きな動機になることは間違いのないところでしょう。今、全国で選ばれた八つの国立公園が世界水準のナショナルパークづくりを目指していますが、十和田八幡平もその中の一つです。そのテーマとは～みちのくの**脊梁**～原生林が彩る**静謐**の湖水、息づく火山と奥山の湯治場～その奥山の湯治場の“今”を訪ねていこうと思います。

網張温泉（其の一） 初回はビジターセンターのある網張温泉です。環境省盛岡管理官事務所の河村俊彦さんから網張の名前の由来について特別寄稿を頂いたので、ここに紹介します。

網張には昔、網張温泉以前に「帝釈温泉」と呼ばれる名湯があったと伝えられている。当時、その地名が“帝釈”と呼ばれていたことから帝釈温泉と呼ばれていたそうである。ところで「帝釈天の網」という言葉がある。帝釈天とは、サンスクリット語でシャクロ・デーヴァナーナム・インドラ（Shakro Devanam Indrah）と呼ばれ仏教での天部の一つを指す。その網とは「天の宮殿にある帝網（たいもう）と呼ばれる網で経緯を結ぶ無数の宝珠とそれぞれにすべての宝珠が映っていると同時に全ての宝珠の中に宝珠の一つ一つが映っている「網」と説明される。

「網張」の語源や由来については諸説ある中でよく、江戸時代後期に一般の入浴が禁止され周囲に網が張られたためという説明が使われるが、網張温泉はそれ以前の今から約1300年前（西暦700年代前半）の和銅年間の開湯とされる温泉であり、中世以降岩手山が岩鷲権現と呼ばれ修験霊場の性格を持っていた当時の世相を踏まえた時、弘法大師‘空海’の「重々帝網 即身」（『即身成仏義』内の一節）の言葉は、この地にどう影響を与えてきたらう。

宮沢賢治は「インドラ（帝釈天）の網」という作品を残し、また、グスコブドリの伝記ではその網をテグスと表現し記している。岩手山を愛した宮沢賢治（1896年 - 1933年）にとって岩手山は心の山、故郷の山、そして古里の山であった。

西暦700年代後期～800年代に活躍した弘法大師の言葉、そして宮沢賢治と網張を含む山岳地の歴史文化的風土を踏まえた時「網張」の語源に新たな視点を加え考察してみるのも面白いのではないだろうか。

「天はれる 重々織りなす くす珠の 奇しき湯沐 阿弥のはれなむ」 どんとはれ。

十和田八幡平国立公園 盛岡管理官事務所管理官 河村俊彦

明治時代に書かれた網張温泉の絵図、当時の温泉は現在のビジターセンター北側の石垣上にあった。図中には大(帝)釈と記されている。



岩手山地区パークボランティアの素顔（その1） 国立公園を支える陰の力

今の網張ビジターセンターに欠かせないのがパークボランティアさんの存在です。「国立公園の保護と利用を広く国民の皆さんの力で広めていこう」と環境省が公募し、岩手山～秋田駒ヶ岳（岩手県側）エリアでは岩手山地区パークボランティア（平成29年度で44名登録、マスコットはモモンガ）が活発に活動を続けています。個性豊かなメンバーを紹介していきましょう。

佐々木 満さん 自然観察会には無くてはならない存在で日本自然保護協会の自然観察指導員でもあります。

- ・「ご出身は？」・「全国花火競技大会で有名な秋田県の大仙市大曲です。網張まで車で片道2時間かけて来ています。」
- ・「ボランティアに参加したきっかけは？」・「網張ビジターセンターの行事に参加したら、その内容がすごく充実していたので自分もこういう活動に参加したいと思いました。自然は自分にとって心を癒してくれる存在です。花や虫や沢山の生きものがそれぞれの環境でどんな風に生息しているかを考えると、どんどん深みにはまっていく。そんな自然観察に魅力を感じています。」
- ・「参加者にどんな自然解説をしたいと考えていますか？」・「自然界のできごとは、単独では起きません。多くの事象と結びついた結果、現象として目に見えてくる。その構造を説明出来たらいいなあと思います。」
- ・「国立公園を利用する人に対して感じることは？」・「カバーをつけずに登山ストックを使う人。自然にもダメージを与えるし、後ろを歩いている人にも危害を与える恐れがあります。周りに対する思いやりの気持ちを持って欲しい。」
- ・「次世代の子ども達へ何かメッセージを？」・「テレビやゲームといったバーチャルの世界に浸るのではなく、本物の自然に触れて欲しい。」
- ・「この国立公園でお気に入りの場所は？」・「犬倉山付近。手軽に行けて高山植物に会えるところ。十和田八幡平では比較的低い標高で森林限界に達するので、大変恵まれていると感じています。」（「自然解説が大好き」 大仙市役所 勤務）



V C 行事 報告

「国立公園で楽しむ親子の自然体験」 始めました！



網張のある十和田八幡平国立公園
周辺は、日本を代表する優れた自然
環境を有しています。

そんな貴重な自然に触れて子ども達は、「はっとする感動」や「沢山の不思議」「人間以外の生きものに対する関心」の気持ちを育てていきます。

今年、ビジターセンターでは四季を通じて、親子で参加できる様々な自然体験プログラムを準備しました。バーチャルに溢れた日常生活から離れて、本物の世界を親子で体験してみませんか。（詳しくはホームページ又は年間行事一覧で）

第一回 5/14 「鞍掛山麓で 生きもの観察入門」

子ども相手の自然観察大好きな伊達 功先生から
沢山の小さな「いのち」があることを教えてもらった
「誠人」くん、「岳」くん「実乃」ちゃん、その澄ん
だ瞳で大人より素早く虫を見つけていました。



ようこそ 20名の新しい仲間たち！ 岩手山地区パークボランティア総会

網張ビジターセンターを拠点としている環境省岩手山地区パークボランティアの平成29年度総会が5月13日に開かれました。平成17年に誕生以来、岩手山周辺の自然保護や公園施設の維持、ビジターセンター行事の支援など、年々その活動内容が広がってきているのに伴い公募をしたところ、新たに20名の仲間が加わり、総会ではパークボランティア連絡会協議会の阿部不頭会長が歓迎の挨拶で迎えました。

主婦、地元ペンションオーナー、山岳ガイド、地方自治体職員など皆さんの年齢や職業は様々ですが、皆さん地域と自然を愛する気持ちは同じで今年の「高山植物探防パトロール」や「特定外来生物（オオハングソウ）防除作業」などの活動計画を熱心に確認していました。



盛岡管理官事務所の河村管理官
から新メンバーに新しいキャップ、
ワッペン、登録証が手渡されま
した。

従来からのメンバーと合わせて
総勢44名の活躍ぶりに期待がかか
ります。



これからの 網張ビジター センター 活動プログラム (予定)



6月10日(土) 馬返し駐車場8:00集合 参加費500円 講師：土井 宣夫 博士
市民火山教室「火山噴出物の観察から岩手山の火山活動の歴史を垣間見る」

6月24日(土) 奥産道大松倉橋ゲート7:30集合 参加費800円 講師：斉藤 安正 氏
「三ッ石山の花紀行」 (八幡平地区パークボランティア)

7月29日(土) 網張ビジターセンター19:00集合 参加費500円(中学生以下300円)
講師：コウモリの保護を考える会と三井 秀男 氏(岩手虫の会)
国立公園で楽しむ親子の自然体験「網張・夜のいきもの観察会」

◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆ 5.1 - 6.30 ビジターセンター企画展示コーナー



5月展示 「岩手山・北アルプス小景」 6月展示 「岩手山・槍ヶ岳小景」

「岩手山・北アルプス小景」 「岩手山・槍ヶ岳小景」

(出展者のことばより)・・・普段見慣れている岩手山も季節や場所そして時間でこんなに表情が変わるんだと感じていただければと思います。また穂高や槍そして剣など岩だらけの山に行ったことのある人には懐かし、初めて見る人には東北の山との違いを感じていただければと思います。

中山 大太郎 氏 フォトプロフィール

盛岡市在住 トレッキング・スキーツアガイド 1938年生まれ
年間入山日数は100日を超す

モモンガのつづやき

石垣の前を歩けばヘビに、ミズバショウの咲く湿地ではヤマアカガエルの鳴き声やオコジョに、薬師社脇の散策路ではキビタキに、湯ノ沢橋ではオオルリに、地面を見ればピロードツリアブに、足元にはスミレも咲いて…新しい出会いもあれば、多少時期がずれても毎年のように姿を見せてくれる生きものとの嬉しい再会もあり、「また会えたね～」と声をかけたくくなります。来年の再会を目指して元気に過ごしたいものだなあ。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆3月 1, 509人 ◆4月 1, 062人

ビジターセンター朝9時平均気温 ◆ 3月 -4.3℃ ◆ 4月 1.6℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月まで) 休館日なし 9時~17時